し尿処理場の機種きまる

着工は五十四年度

北浦西南部清掃センター組合（管理者石井市長）では、し尿処理施設の拡張準備を進めてきましたが、一月二十日の組合議会全員協議会で、満場一致で機種の選定を行いました。

選定した機種は、アタカ工業（本社＝大阪市）のIZジェットエアレーション方式というもので、処理能力は日量百キロリットルのものです。

増設を計画するに当たり、昨年の三月に、七社から計画書と見積書を提出してもらったところ、従来の酸化方式によるものが六社で、建設費はいずれも十三億円台で、アタカ工業のIZ方式が八億三千万円の見積りでした。しかも群馬県水上町のIZテスト施設と青森県五所川原市の施設を現地調査した結果、IZ方式には、他社のものに見られない特長を確認し、組合では八月にIZ方式採用の意思統一を行いました。

水上町のテスト施設は、日量十キロリットルのもの二基で、運転成果は良好でしたが、さらに大規模な施設の成果を知るため、その後の調査は、五所川原市の施設で繰り返し行いました。

五所川原市の施設は、日量四十キロリットルのもの二基で、昨年の五月から試運転を開始し、九月から全量運転を開始しました。

全量運転開始後は、関係市町村長や組合議員、処理施設付近の住民代表が、四回にわたり五所川原市で現地調査の結果、IZ方式の成果が良好であると確認しました。この結果、一月二十日の議員協議会で、満場一致で採用を決定したものです。この間、組合では、さらに詳細の調査を行うため、工事の開始を明年度に延期することにしましたが、明年度早々には着工される見込みです。

採用に決定したIZ方式には、次のような特長があります。

○ 従来の酸化方式は、厚生省規準によって、二十倍の水で薄めて放流しなければなりませんでした。しかし組合では、技術が進歩したことと、大通川の水不足のため、十倍に薄めて放流する計画で設計を要求しました。ところが、IZ方式は全く水を必要とせず、放流水は、水で薄めたものと同等以上、すなわち従来の方式の十倍から二十倍きれいになります。

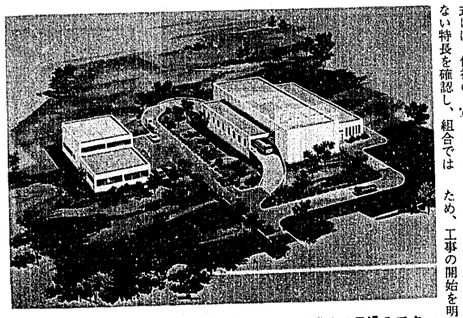
○ 従来の方式は、十数日をかけて、し尿を消化するため、それだけの消化槽が必要でしたが、IZ方式は二日くらいの間に反応槽で急速循環します。このため、施設がうんと小さく、用地を節約できます。したがって建設費も安くすみます。

○ 窒素分の除去率が高いので放流水が農作物に害を与えません。

○ 汚濁物質の排出量が、従来の四分の一程度です。

○ 臭気の発生度合が少ない機種です。

なお、工事が完了すると、施設の処理能力は、日量百三十キロリットルになります。これは、最初の日量四十五キロリットルの施設が老朽化したため廃止し、前回の増設分と合わせて百三十キロリットルになるものです。



し尿処理場の完成図。55年の夏までには完成する見込みです。

今年度の市道舗装終わる

舗装率は四六・三パーセント

五十三年度の市道舗装事業が、完了しました。

今年度実施した舗装延長は一万五千九百五十メートルで、舗装道路の総延長は、一四五・三キロメートルとなりました。これで市道総延長三二三・九キロメートルの四六・三パーセントが舗装されたことになりました。

舗装延長一四五・三キロメートルは新潟駅から上越線で、ほぼ群馬県境いに達する長さです。

参考までに、四十七年度以降の舗装状況は、次のとおりです。

四七年度
市道延長　二六九・五キロメートル
舗装延長　二六・一キロメートル
舗装率　九・七パーセント

五〇年度
市道延長　二八〇・七キロメートル
舗装延長　六六・二キロメートル
舗装率　二三・六パーセント

五三年度
市道延長　三一三・九キロメートル
舗装延長　一四五・三キロメートル
舗装率　四六・三パーセント

国保運営協議会委員決まる

任期満了によって、新しく次の十五人が国民健康保険運営協議会委員として、一月一日付けで選任されました。

任期は二年です。

菅原精悦（前新田）　岩崎栄松（下大谷内）　岡田静司（高森新田）　風間正太郎（内沼）　佐藤栄東（早通南三）　金沢裕孝（内島見）　橋本芳雄（大口二）　田中勝（上土地鬼）　三林和緒（上富田伸（白新町二）　仲川信雄（笹山）　池田和美（上大月）　渡辺礎（太子堂）　藤田三与（内沼）　山尾吉郎（中町）

市議会

第1回臨時会

五十四年の第一回臨時市議会が、一月二十九日に開かれました。議決事件は、次のとおりです。

◎一般会計補正予算（八号）

専決処分の承認について

予算の補正について、議会を招集する暇がなかったため市長が専決処分したので、このたび議会の承認を得たものです。

一般会計予算は、一千百二十七万八千円を追加して、総額五十八億四千七百八十三万八千円になりました。これは職員の退職により、退職手当を基金から繰り入れたものです。

◎若葉保育園買収契約専決処分の承認について

これは、補正予算と同じ理由で専決処分していたものを、議会が承認したものです。

豊栄市社会福祉協議会では、中央競馬社会福祉財団からの寄付金を見込んで新桑地内に若葉保育園を建設しましたが、その寄付が見込まれなくなったため、市で買収することにしたものです。契約金額は四千二百七万七千円でした。

◎木崎小学校校舎建築工事請負契約の締結について

木崎小校舎の建築工事について、入札を行いましたが、次のように契約を締結することで、議会の議決を得ました。

○校舎建築工事
業者　㈱田中組（新潟市）
金額　三億七千百万円
工期　五十五年五月十日

なお、付帯工事については金額の関係で、議決を必要としませんが、次のとおりです。

○機械設備
業者　昭和設備工業㈱（新潟市）
金額　七千四百五十万円
工期　五十五年五月十日

○電気設備
業者　㈱興電舎（新潟市）
金額　五千五百八十万円
工期　五十五年五月十日

○ 国の景気浮揚対策にもよるが、教育施設、衛生施設、消防施設、土木施設など社会資本の充実に積極的に取り組んだ。

○ 住宅供給公社駅裏団地の地域汚水処理場建設について

新年度予算の見込み

六十億三千万円

二五・六パーセントの伸び

五十四年度一般会計予算案の編成事務が、ほぼ終わりましたので、その概要を財政課に聞いてみました。

予算案では、歳入・歳出とも六十億三千万円となり、五十三年度当初予算に比較して十二億三千万円、二五・六％の伸びとなりました。このような大幅の伸びは、近年では五十年度に次ぐものです。

五十四年度は、これまでと同様に、財政事情が急に好転することは望めないので、歳出では、消費的経費を極力抑えるなど努力しましたが、六十億三千万円という大型の予算になりました。この原因としては、次のような点をあげることができます。

○ 国の景気浮揚対策にもよって市営工事とした。

○ 電源立地と石油貯蔵施設の交付金によって、消防施設と博物館を建設する。

歳出の性質別の比較では、普通建設事業費が二十二億四千七百三十二万円で総額の三七・三％。人件費十四億八千七十一万円で二四・六％。扶助費七億五千六百九十万円で一二・五％。物件費五億六千二百八十万円で九・三％。公債費二〇・五％、公債費六・八％などとなっています。

建設事業等は、一月の広報でお知らせした三か年の総合計画実施計画に取り上げられた事業が、優先的に取り上げられています。

歳入は、地方交付税十六億二千五百万円で総額の二六・九％。国県支出金十四億一千九百二十九万円で二三・五％。市税十二億四千四百九十三万円で二〇・七％。市債五億六千五百七十万円で九・四％などとなっています。このほか電源立地対策交付金、石油貯蔵施設立地対策交付金などが見込まれています。

水害で指定数を下回る

―米の売り渡し―

市の五十三年産米の政府売り渡し数量が、まとまりました。

買い上げ指定数量は、うるち米二十七万五千二百七俵、もち米一万六百二十八俵、計二十八万五千八百三十五俵でしたが、売り渡し数量は、次のとおりでした。

（一俵＝六〇キログラム）

うるち米	二五五、九二八俵
もち米	九、六九八俵
計	二六五、六二六俵

この売り渡し数量は、政府の指定数量より二万二百九俵五十二年より二万三千五百六俵の減となっています。

昨年の六・二六水害後、買い上げ数量の調整を行なったところ、減収のため最終的には二万六千百三十五俵の減量申請がありました。一方、あまり水害の影響のなかった地域からは、五千九百二十六俵の追加希望があり、政府の指定数量より二万二百九俵の減となったものです。

なお、政府への売り渡し農家数は二千五百三十二戸で、一戸の平均売り渡し数量は、百五俵ほどでした。

昨年八月下旬から工事を進めていた「すみれ保育園」はいよいよ仕上げの段階になりました。四月からは、新しい装いで園児を迎えます。